

前野のお頭神事



平成 26 年度お頭神事 集合写真

前野のお頭神事は、旧正月 15 日 (現在は 2 月 11 日) に、各家の悪霊を退散させ前野地区の家内安全と豊作を祈願する行事です。昭和 59 年 (1984) 2 月 23 日に明和町の無形民俗文化財に指定されています。

一守り伝えられた神事一

県内には数多くの獅子舞がありますが、^{おかしら}「御頭^{しんじ}神事」と呼ぶのは伊勢市周辺の宮川流域を中心とした地域だけです。獅子頭を「オカシラさん」と呼び神聖視する点が特徴です。

前野のお頭神事の特徴は、神事を行う「ネギサン」を 6 軒 (かつては 7 軒) の家が世襲してこれまで守り伝えてきた点です。江戸時代から代々受け継いできたことを裏付ける証拠として、^{てんぼう}「天保^{へいしん/ひのえさる}七丙申 (1836) 正月十五日改」の銘がある神事に用いる道具箱があります。箱の蓋の裏側には、「源七 / 仁兵衛 / 勘六 / 菊松 / 平治郎 / 増吉 / 松治郎」、続けて「子供式人 / 都合メ九人衆」とかかれ 7 名のネギサンの名前が記されています。このことから、現在はネギサンは 6 軒と減ってしまっていますが、長い歴史の中で、さまざまな困難がありながらも、江戸時代からほとんど担い手を変えずに今日まで守られてきたことは数あるお頭神事の行われ方を考える上でも大変貴重です。



道具箱に書かれた約 200 年前の舞手の名前

*本解説シートは 2015 年 2 月 11 日の見学記録を基に、神事参加者の山崎泰久さんからの聞き取りを加え作成しました。

一 神事の準備一



神事の準備風景

神事当日はオカシラを祀る猛祭神社に幟や提灯もうさい のぼり ちょうちんが飾られます。

社から出されたオカシラは隣の正念寺の一室に移されます。部屋はオカシラの装束と同じ模様の幕で囲われ、ネギサン以外は入れません。舞が始まるまでにオカシラに化粧をほどこし、頭に取り付けた飾りを補います。準備が整うと、神社の前で舞が奉納された後、本堂前で舞が始まります。

一 神事を支える人びと一

神事はネギサンと子ども二人で構成され、オカシラ（御頭）・アトマイ（後舞）（子役）てんぐ・天狗（子役）はい さしずかた がく・は・指図方・楽（太鼓）をそれぞれ担当します。指図方はお供えをした家の名を読みあげ竹の棒に挟み、掛け声を入れます。楽が打たれるのに合わせて、オカシラが舞います。オカシラは反時計回りに一周し、楽が激しくなると天狗に迫るようにせりあがります。その後、右に傾けて持っていた獅子頭を左に二回傾け、さらに反時計回りに1周すると、1軒分の舞が終了します。アトマイは頭から衣装を被り、オカシラに合わせて動きます。天狗は楽の調子に合わせて「サザラ」という竹でできたギロのような楽器を鳴らします。拝はお供えを指図方に渡します。拝は舞の間、お供えを渡す盆をかがげ頭を伏せます。お供えをした各家に対して同様の舞を行った後、前野神社へ移動し同様の舞を行います。舞が終わるとオカシラに御神酒などが備えられ、ネギサンの中で宿になっている家で食事をとります。



1



2



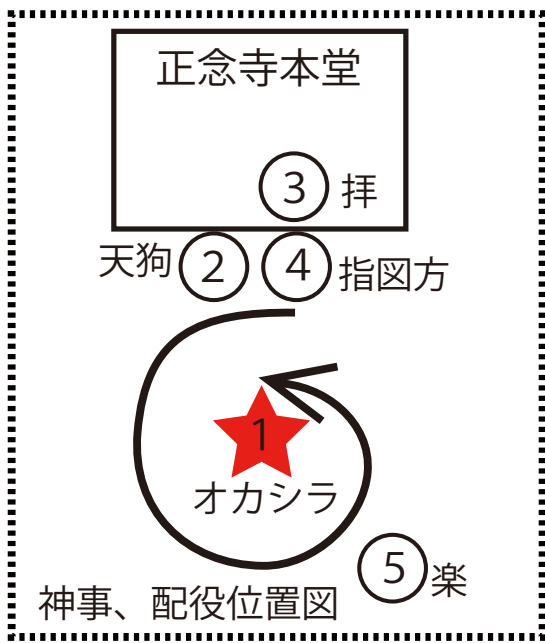
3



4



5



大きく口を開き天狗に迫るオカシラ

ーお頭神事の移り変わりー

かつて神事は3日間かけて行われていましたが、神事を続けていくにはネギサンの負担も大きく現在は1日だけとなっています。また、夜の「カゲマイ」・「エベス踊り」もなくなり昼間だけです。以前は各戸を回って舞っていましたが、昭和50年代頃から正念寺一ヶ所で行うようになりました。

当時は1日目に前野集落各戸の玄関先で「カドマワシ (門舞わし)」を舞いました。現在行っている舞方の他に、「スワリウマ (座り馬)」・「タチウマ (立ち馬)」と呼ばれるものもあり、舞を行う家は決まっていた。

集落の各戸を回るほかに、5ヶ所ある山ノ神の祠と前野神社にも定まった道順で移動し、それぞれ舞を奉納します。夜には提灯を掲げる「タカハリモチ (高張持ち)」が加わり「エベス踊り」が行われ、オカシラの舞頭を押し合い乱動します。提灯には子どもたちが集まり威勢よく灯を消そうとします。参観人が荒れ、何度も灯が消えるほど集落に活気があふれ、無病息災になると考えられるようです。

2日目はネギサンの内で当番になったお宅にオカシラが祀られ、料理がお供えされます。料理の内容は江戸時代の古文書が残されており、「指身」や「鮎」などの文字も見られ、豪華な内容だったようです。

3日目は正念寺境内で「オサメノマイ」が行われ、オカシラを祠に収め神事は終了します。



昭和の頃の神事
(詳しい時期不明)



平成26年度の神事



カドマワシ (門舞わし) の様子

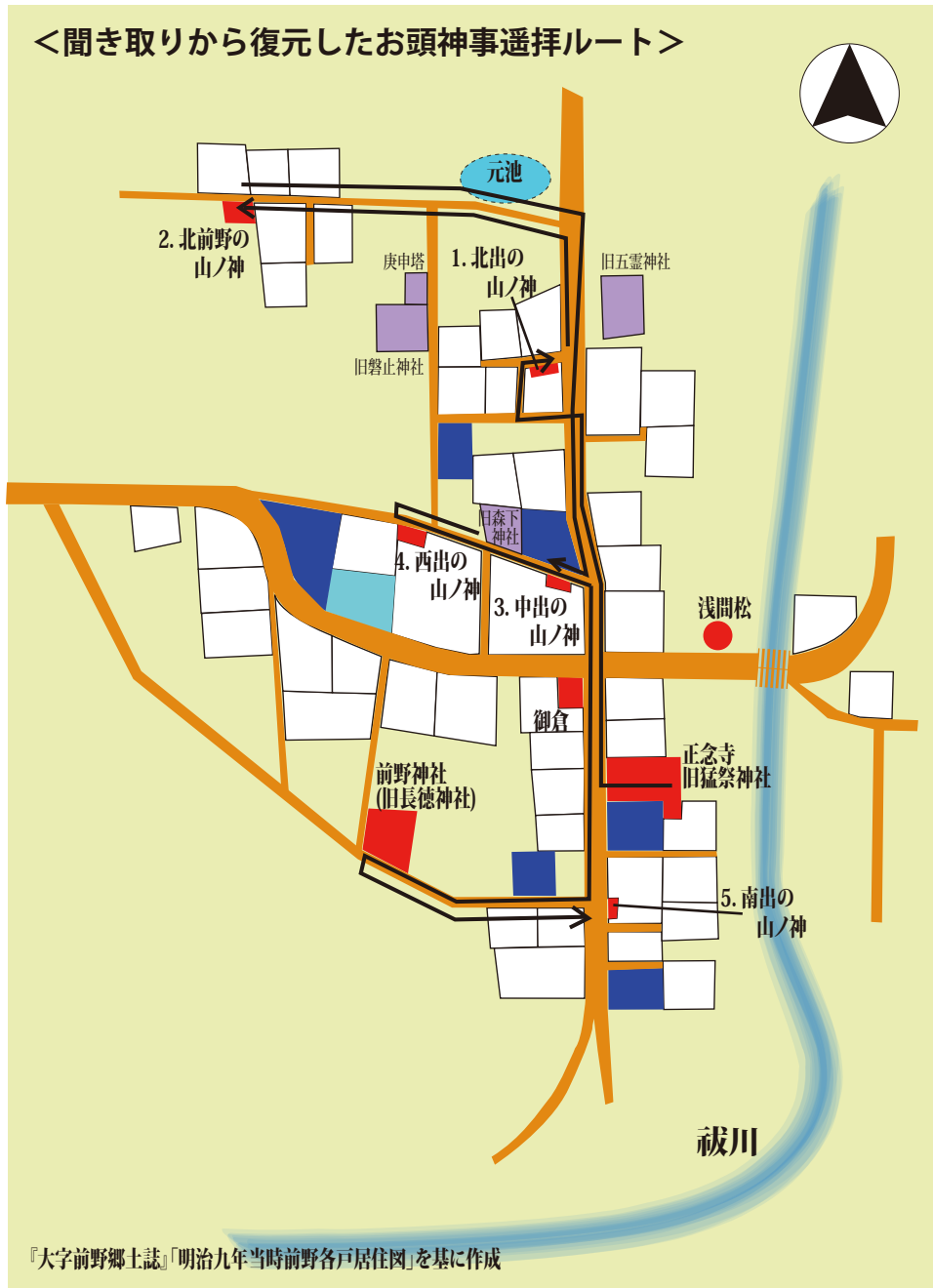


スワリウマ (座り馬) の様子



「エベス踊り」でオカシラを押し合うの様子(平成24年)

＜聞き取りから復元したお頭神事遷拝ルート＞



『大字前野郷土誌』『明治九年当時前野各戸居住図』を基に作成

青(濃): ネギサンを世襲する家
 青(淡): 毎年オカシラの「オシタ(御舌)」
 となる茜を奉納する家
 赤: お頭神事に関わる場所



元池を走り抜ける様子

北前野の山ノ神からの帰り道、元池であった田んぼを走り抜ける。これは、池に住む竜神の怒りから逃れるためとも、過去にお頭と天狗が池に落ちたためとも言われている。



前野神社でも舞が奉納される。

*平成26年度の神事では正念寺境内での舞の後、前野神社に移動して舞を奉納し、山ノ神への遷拝は簡略化されています。

一 お頭神事の起源一

また、地元の堀井光次氏が著された『大字前野郷土誌』によれば、オカシラを収める箱の底裏にも「延享二丑年(1745)十一月吉日願主/間宮氏厚雄」と墨書されているとあります。さらに神事当日の献立が書かれた「八王子祭典記録帳」には「享保十六歳(1731年)亥ノ正月十七日」の銘が見られると記述されています。このことから神事は280年以上前野地区で大事に守られてきた長い歴史と伝統があるものです。

寛政二 享保十六 晚御鏡 二戌年 正月十七日 改日	一、指身 一、鮓いな	海老押 引のり まき	一、煮物 一、焼物 一、御酒 一、御膳	魚の いのかい いな八寸	御食 白和 こんにやく	◎書付文書 一、生酢 ◎御頭様食器入れ三つの箱の蓋裏に 宝曆三年西正月 奉寄進 間宮重右工門 と記入あり	◎御頭様本体入れ箱の底裏に 延享二丑年十一月吉日願主 間宮氏厚雄(理右工門) と記入あり
--	---------------	------------------	------------------------------	--------------------	-------------------	---	---